

今回は日本の地形を読みとる上で欠かせない傾斜の変換とその読みとりの練習法を紹介する。

傾斜変換

尾根・沢の把握が可能になったら、今度は傾斜の変換を利用できるようにしたい。これはステップメソッドでは明確に示されていないが、傾斜の緩急を読み取れるようになると、使える特徴物が格段に増える。とりわけ日本の地形では、傾斜が変化する点・線は地形上のよい特徴となっていることが多い。尾根やピークの形の違いを読み取ったり、尾根の特定の地点を把握するのもにも使える。これはオリエンテーリングだけでなく、登山等山岳を利用する他のアウトドア活動においても有益なスキルである。

- 1) 等高線の間隔が広いところは傾斜が緩やかで狭いところは傾斜が急である。
- 2) 両者の変化が生じる場所には「肩」や「根本」など地形上の特徴が現れる。



図 1 : a 点は傾斜が急な尾根から平らな部分への変換点なので、「尾根の根本」となり、b 点は傾斜が緩やかな尾根から急な尾根への変換点なので「尾根の肩」となる

人間の目で等高線が修正される O-map では、傾斜の変換点・線は比較的誇張して表される。それを把握できるようになることは、等高線理解の最終段階である。これも、机上での概念的な理解と、実際の山の中での等高線と地形との対応の両方を通して学習することが効果的である。

(1)概念的な学習

傾斜の緩急による地形上の特徴を地図(等高線)および現地の写真・模型等で確認する(図 2 参照)

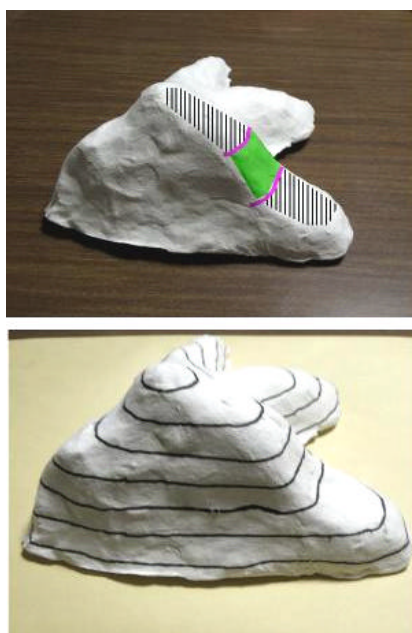


図 2 : 地図・模型(風景)の両方で、縦線部が緩斜面、色塗り部分が急斜面。両者の境が線状になっているので、この場合傾斜の変換線となる。左下図からわかるように傾斜の変換点・線は風景の中でも目立っている

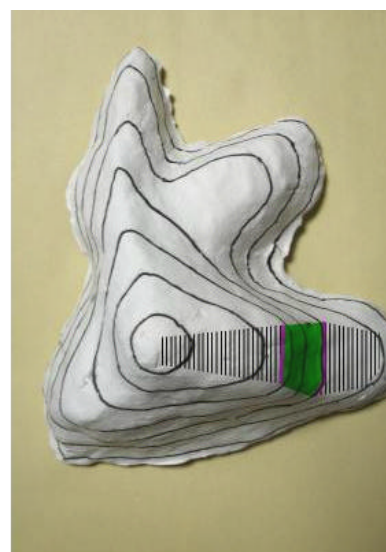


図 4 図 4 : 左下の等高線が密な斜面と右上側の平らな部分の境が変換線になっている。コントロールへのアタックでもこの変換線を利用してエイミングオフができる

(2)傾斜の緩急が利用できるレグ 例とその使い方を示す

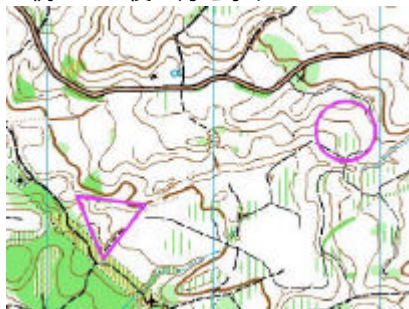
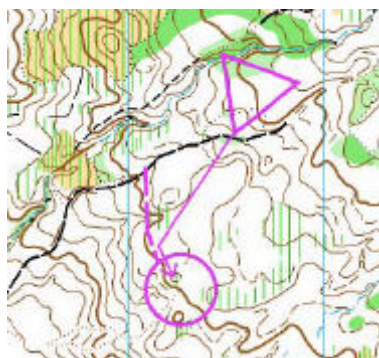


図 3 : レグの左側に等高線が密な斜面があり、右側には等高線のない平らな部分があるので、両者の境ははっきりした傾斜の変換線になっており、現地でもよくわかる。このような線を利用すると、からに向けて容易にナビゲーションすることができる。



(3)実習

トレインで、地図と現地で傾斜の変換点・線を確認する(対象者によっては、まず傾斜の変換を読みとる必要のあるレグを経験したあと、現地でその振り返りを行うという実践的なやり方でもよい。

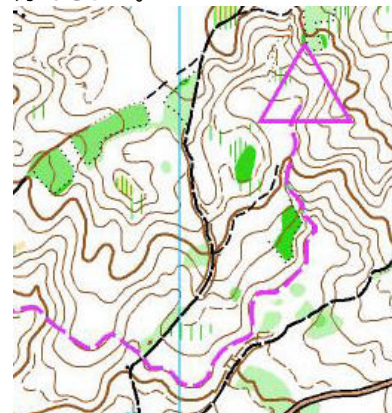


図 5 : ラインオリエンテーリング(破線に沿って移動。そのどこかにコントロールがある)は、傾斜の変換を読みとるよいトレーニングとなる